

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人九州工業大学

## 1 全体評価

九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を継承し、多様化・複雑化する社会的要請に応え、産業発展に資する人材を社会に輩出するとともに、学術の高度化と新技術の創出に貢献する工学系総合大学を目指している。第3期中期目標期間においては、海外大学等との連携を深めグローバル時代に相応しい大学の機能強化を行い、技術の革新や社会変化にも対応できる高度な専門力と豊かな教養を備えたグローバル・エンジニアを養成するとともに、研究力を高め地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野（イノベーション）の創出に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、台湾科技大学及びプトラ大学（マレーシア）等と国際共同研究を開始しているほか、企業等に教員が助言等を行う「学術指導制度」やシーズ情報の発信を推進により共同研究及び受託研究件数が増加するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 組織対組織による共同研究講座を2件設置したほか、産学連携を推進すべく、企業等に教員が助言等を行う「学術指導制度」及び金融機関のネットワークを活用したシーズ情報の発信等を実施した結果、共同研究及び受託研究の件数が前年度から増加するとともに、産学官連携活動に関与する教員の割合は49.8%（対前年度比4.5ポイント増）となっている。（ユニット「連携の高度化による産学連携研究の活性化及び国際共同研究の強化」に関する取組）
- 海外インターンシップ等を推進するため、留学生との協働学習に係る大学院授業科目の素案策定や、海外未渡航の学生を対象とした「First Step」プログラムを策定・実施し、18名の学生がタイでの研修プログラムに参加しているほか、学部における留学生との協働学習を開講している。（ユニット「海外大学・海外研究機関との高次の連携を活用したグローバル人材育成と国際共同研究の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用 ②安全管理 ③法令遵守 ④男女共同参画

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成 29 年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

**○ 情報セキュリティ相互監査の実施**

法人間連携による情報セキュリティ対策の強化を目的に、佐賀大学、長崎大学との3大学間で情報セキュリティ相互監査の実施に関する覚書を締結し、平成30年2月から3月にかけて相互監査を実施している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 学生の課題解決力向上に関する取組への支援

授業で学んだ知識やスキルを活用し、課外活動を通して課題解決力、コミュニケーション力等を養成することを目的とした「学生創造学習支援プロジェクト」を実施しており、19の学生団体へ活動経費を支援し、これらのプロジェクトを紹介した冊子を作成することで学生の取組を学内外へ周知している。平成29年度においては、採択した団体の一つが最先端のロボット技術を競う「RoboCup2017世界大会」での優勝といった成果を収めている。

### ○ 国際共同研究の推進に関する取組

大学間国際交流協定を締結している台湾科技大学と研究連携合意書を締結し、5件の共同研究グループによる共同研究を開始したほか、マレーシアの海外教育研究拠点のあるプトラ大学とも3件の共同研究を開始している。また、7名（内5名は外国籍）の特任助教を雇用しており、航空宇宙工学分野等の重点研究分野へ優先的に配置し、超小型衛星の製造・組み立てに関する共同研究を実施しているほか、海外との共同研究の起点となる役割も果たすなど、組織的な研究力強化の向上に貢献している。